

## 映画『ディア・ファミリー』

一般財団法人

ベンチャーエンタープライズセンター

理事長 市川隆治

今年6月、大泉洋主演の映画『ディア・ファミリー』が全国公開された。既にご覧になられた方もおられるかも知れない。これは(株)東海メディカルプロダクツ筒井宣政会長の波乱に満ちた半生の実話に基づく感動のノンフィクションである。

実は筒井会長には長年にわたり私どもの一般財団法人 VEC の評議員を務めていただいております。今般の映画公開は VEC としても大変嬉しいできごとであり、心よりお祝い申し上げた次第である。どのようなつながりがあるのか？原作『アトム的心臓 「ディア・ファミリー」 23年間の記録』清武英利著、文春文庫、2024年4月10日第1刷発行の148ページにそのヒントが隠されている。

「東海メディカルは銀行融資に加え、財団法人研究開発型企業育成センターから債務保証を受けたり、・・・」

この長い名前のセンターこそ後に名称変更した VEC の前身なのである。

諸般の事情から債務保証事業は既に廃止されているが、これは何の実績や担保もないため金融機関の融資が受けられないベンチャー企業に対し、官民ファンドの VEC が審査が通れば債務保証を行う事業である。当時の記録によれば、昭和59年に同社は「生体適合材料(抗血栓性材料)開発プロジェクト」で、平成7年に「経皮的拍動流左心補助循環装置の開発」で債務保証を受けている。これらの研究開発テーマの意味や当時の審査状況の思い出について筒井会長に伺うと、次のように教えていただいた。

*次女・佳美が先天性心臓疾患で生まれ、当時の医療技術では治すことができず、手術せずに温存すれば10年は生きられるとの主治医の言葉に断腸の思いで手術を断念しました。ただ、娘の手術費用に貯めていたお金を、こういった子が生まれないように、生まれても治せるような研究をしているところに寄付しようと妻が提案してくれたので、主治医に相談したところ、人工心臓の研究を一緒にしないかというアドバイスを受け、娘のための人工心臓の個人研究を昭和53年頃から始めました。*

研究を続ける中、会社組織にすれば公的資金を受けられるとアドバイスをいただき、公的資金援助の受け皿として、昭和 56 年に株式会社東海メディカルプロダクツを設立しました。

そして最初の公的資金援助を受けたのが財団法人研究開発型企业育成センター (VEC) からの債務保証でした。

ただ、この債務保証の審査はとても大変なものでした。

まず審査書類の作成が大変で、昼間は元々の東海高分子化学の事業運営、そして人工心臓の研究開発があったので、夜しか時間がありませんでした、妻と一緒に手書きで作成しましたが、片方は字が段々大きくなって下がっていき、片方は字が段々小さくなって上がっていきなど、今見返してみると冷や汗のするような書体でした。しかし、研究開発テーマにした「生体適合材料 (抗血栓性材料)」は、人間の体内・血管内にいれても血栓を起こさない、安全・安心な材料を探し出すという人工心臓開発には非常に重要なテーマであり、申請書には「なぜこの研究開発が必要なのか」を切々と訴え、熱意は十分伝わるものだったと今でも思います。

そして、面談による審査もとても苛烈なものでした。審査委員長は本田技研・本田宗一郎様で、その他の審査員には通産省や工業技術院、会計検査院、特許庁など各分野のプロフェッショナルが並び、あらゆる角度からの様々な質問を受けました。私の 1 つ前の審査面談を受けた企業の社長さんは、面談室から出てくるなり腰が抜けたのか、社員に抱えられて出て行きました。どれだけ厳しい質問が来るのかと思いましたが、私は研究開発だけでなく、製造や営業、経理や採用に至るまで何でもこなしていましたので、難なく回答することができました。

印象的だったのは、審査に通過して債務保証していただくことが決定した後、夫婦で招待していただいた認定祝賀会で、本田宗一郎様と直接お話した時でした。本田様に何故私共の研究開発を通していただいたのか尋ねたところ、『皆が自分の技術が一番だと持ってくるものに優劣を付けることは私にはできない、なので①その人が人に好かれているか、②意欲はあるか、③良いパートナーを持っているか、④人の意見を聞く耳があるかで判断している』と仰ってください、慌ててメモを取ったことをよく覚えています。



VEC から債務保証 4,200 万円を受けたことを皮切りに厚生省、通産省、科学技術庁等、20 指に及ぶ 10 億円以上の助成金、及び国家融資をいただき、会社の育成に大変に役立ちました。そして初代理事長の荒川英夫様には本当に目をかけていただいて、あらゆる場面で温かなご指導をいただいたことをよく覚えております。

VEC からご支援いただいたことで 2 つの債務保証プロジェクトは研究開発が順調に進み、終了後には「著しい成果を収められ、産業社会の発展に寄与」したとして VEC から表彰していただき、成功報酬として割増保証料も納付させていただきました。

興味深いのはこの 2 件の債務保証決定時の会社の規模の違いである。昭和 59 年に従業員 4 名、資本金 600 万円だったのが、平成 7 年には従業員 35 名、資本金 5 千万円と成長している。しかもその間の平成 3 年には最愛の次女を天国に送っているのである。そのような逆境にもめげることなく、バルーンカテーテルの研究開発に没頭していたということであり、その不屈の起業家魂は多くの起業家に模範となるのではないだろうか。

時を経て、筒井会長は 2002 年黄綬褒章、2011 年旭日双光章を受章され、また 2015 年には EY Entrepreneur Of The Year 2015 Japan の大賞を受賞され、日本代表として 2016 年にモナコで開催された世界大会でスピーチを行い、国際的な舞台でも拍手喝采を浴びた。この時にいただいた貴重なバッジについて筒井会長は懐かし気に語った。

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーという表彰制度は少し変わっておりまして、通常の申請書による審査だけでなく東海北陸大会、日本大会、世界大会、それぞれで面談審査が課されておりました。また、申請書も過去の会社概要や業績を列挙するだけでなく、下記6つの項目について詳しく記載するように求められました。

- ◆ *Entrepreneurial spirit* : 起業家としての経験、創業から現在に至るストーリー、チャレンジ精神などの観点から、起業家精神について評価する
- ◆ *Financial performance* : 過去の業績、資金調達実績、投資実績、株価、持続可能な成長に向けた戦略等、さまざまな側面から、事業戦略について評価する
- ◆ *Strategic direction* : 事業に対するビジョン、成長や差別化に向けた戦略、企業文化などの観点から、事業戦略について評価する
- ◆ *Global (or community) impact* : 事業の国際性や国際的な影響力等を評価する現在、海外展開を行っていない場合は、今後の国際展開のための戦略と事業モデルを評価する
- ◆ *Innovation* : 製品やサービスの革新性、創造性等について評価する
- ◆ *Personal integrity / influence* : 後進の起業家たちが目指すロールモデルとしての存在感、社会的な取組み、社会貢献活動などについて評価する

世界大会が開かれるモノコに着き、自分が注目されていることを改めて知りました。海外メディアの取材が引きも切らず、家族と憩う時間ありませんでした。世界大会での面談審査は英語で行うのが通常ですが、それではあなたの熱意が伝わらない、せっかくのストーリーが生きてこないのが日本語で話すように審査員からアドバイスを受け、本番では語るべきことは語り尽くしました。次女の心臓疾患に触れただりでは、目に涙を浮かべる審査員もいました。世界の起業家たちと触れ合い、競い合ったことは、私にとって大きな刺激になり、まだまだこれからだ、さらに成長していきたい、そんなふうに思いました。

そして、このような光栄な場所で表彰されたのは亡くなった娘がどこかで見守ってくれているからで、今後も世の中に貢献していきたいと強く思いました。





私自身、個人的に原作の文春文庫を読んでいくつかの点でとても共感を得た。

第1に、私自身名古屋の出身であり、「～～だけじゃないがや」といった名古屋弁の箇所には懐かしさを感じた。

第2に、実家がビニール加工業であったので、読んでいくうちにビニールの匂いを感じられた。それにしても親の残した借金返済のため、単身アフリカに渡り、髪結いひもを売りに行くくんだり、直接ご本人からお聞きしたこともあったが、その冒険心には脱帽である。

第3に、アフリカでデンデン虫や猿の脳味噌を食べた話が出てきたが、これはフランスでのエスカルゴや羊の脳味噌（留学のときの学食）を思い出させた。

東海メディカルプロダクツのバルーンカテーテルは17万人の命を救った。このような人類にとって有意義な研究開発が昨今のスタートアップ支援政策から生まれてくることを願ってやまない。